

一枚のピッツァに凝縮された人生観

ピッツェリアトラットリア
アロマ デル ソーレ オーナー・ピッツァアヨロ：金子 剛久
株式会社エイディーエス

自分にはこれしかない

「ノーピッツァ・ノーライフ」。「ピッツァがなくして、人生なし」が、ピッツァ職人金子剛久氏の人生論。ピッツァ作りを心底楽しみ、一枚一枚心を込めて手作りする。そして、それを味わった人が幸せ気分になることを願っている。

「自分のくいぶちを稼ぐには、これしかないんです。それ以外はだめで、いいところはないんですよ」と謙遜するが、38歳という人生の折り返し前に、自分にとってこれしかない、と、迷わず言い切れる人が、世の中についた何人いることだろう。

受ける。

まずは、接客からスタート。2年間の接客経験は、「お客様の求めているものは、料理だけ作ってでは理解できない」という持論を導き出した。だからこそ、今全てのスタッフ達にも、接客を経験させている。それは、お客様を大切にしていることの表れでもある。

そして、ピッツァ職人を目指したのは「出合ってしまったから」とひと一言、その運命の出合いは、10年ほど前。当時一緒に働いていたナポリ人のピッツァ職人が作ったピッツァ。見て、食べて、思わず「すげーっ!!」とうなったのだとか。それまで、ピッツァ自体をあまり重要視せず、まし

楽しみ楽しませるのが好き

大切に思うのは「極端には世界の平和。妥協すると、自分の周りが穏やかであること」。

目指すのは「極端にはピッツァを通じてイタリア料理や外食産業の底上げで景気を良くし、文化を築くこと。妥協すると、自分と自分の知っている店がぶれないこと」と、なんとも捕えがたい答えが返る。趣味は、TVでのサッカー観戦と読書。『相対性理論』や『般若心経』など難しい本を選ぶのは、就寝前に読むとすぐ寝れるからとうそぶく。冗談めかした言葉の裏には、実は、物事を真面目にしっかりと見て、他人の幸せを願い、自分に妥協しない真摯な姿が隠されている。それは、何気なく使った「永遠に続くものはない」という、達観した言葉の端からも伺える。

「小さい頃からお調子者。それでいて自己顕示欲が強く、クラスでもふざけてひっかきまわすのが得意でした。特に、運動ができたわけでも、勉強ができたわけでもないの、ねらうのは、そのポジション」と、三枚目を装うが、根っから人を楽しませるのが好きだからこそ、ふざけたり、脱線させたりしていたのかも。

笑点、や、なぞかけ、番組がお気に入り、一つの単語から、幾通りもの意味を考えるのが好きだったそう。そのせいか、言葉のセンスは抜群。メニュー名に、大胆にもスタッフの名前を使って、「今日の青木」などと命名する。その心は、スタッフに自覚と誇り、やる気を持って働いて欲しいからという、彼らしい、ユーモア溢れる優しさに違いない。

店名のアロマは香り、ソーレは太陽。それは愛娘、日香にちなみちゃんの名前。この店を目指して来て欲しいと願って、わざわざ街の外れの平成通りの突き当たりを開店して5年。市内はもとより、県外からも、おいしいピッツァを求めてくるお客で賑わう。厳選した小麦粉水塩酵母だけをこねて、丁寧に両手で広げ、こだわりのチーズやトッピングなどをトッピングし、薪窯ですばやく焼き上げるピッツァは、まさに職人の技と心意気が凝縮した逸品。食べた人の心をお日様のように、やさしくあたたかく包み込んでくれる。

取材日：平成24年1月13日

運命の出合い

始まりは、実にシンプル。語学を志して進学したものの、現実のカリキュラムとのギャップに落胆。レストランでアルバイトをしていたことから、飲食業界に身を置くことにした。「今思えば、家業が食材の卸だったので、漠然とはあっても、飲食店に興味があったのかも」。イタリア料理を選んだのは「もてると思ってた」と笑いながらも、仏料理、ラーメン、寿司など、さまざまなものを思いえがいた末の消去法で残ったから。ある意味、きちんと取捨選択したように見



Profile

金子 剛久 (かねこ たけひさ)

ピッツァアヨロとはピッツァ職人という意味。1973年10月5日生まれ38歳。宇都宮市泉が丘のパン・ケーキ類材料卸の家に、男3兄弟の次男として生まれ育つ。作新学院から大学に進むも、途中で飲食業界に転身。数店の市内イタリア料理店で、接客や料理を学んだ後、『サンクリストフォロ』（宇都宮市錦）を経て独立。今年2月で5周年を迎える。



てやメインにすえてやっていくなど考えもしていなかったが、この出合いで、「これでやっていきた」という思いが芽生えた。

そのナポリ人に教えるを乞うが、そこそこは教えてくれたも肝心なところは教えてくれない。そこで、本場ナポリに行くことと決意。イタリア語を独学で学び、ナポリやトスカナを訪れる。今では、日本で30数店舗にしか与えられていない「真のナポリピッツァ協会」の認定を、栃木で初めて手にするまでになった。

夢を夢で終わらせない。その強い思いと行動するエネルギーの源を問うと、「ノリで言っ、ひっこみがかなくなっちゃったんですよ」と。ま